

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：南薩指導区 氏名：山下幸一

1 発表テーマ

南薩地域の森づくり推進の取組

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

南薩地域のスギ・ヒノキ人工林は7齢級以上の利用可能な林分が約96%と、資源が充実し、県内木材加工施設や木質バイオマス発電施設における安定した需要に加え海外輸出の増加に伴い、伐採面積は増加傾向にあるが、再造林率も約80%と県平均より高い状態を維持している。

再造林用の苗木は、コンテナ苗利用の比率が高いが、管外から移入されている状況にあり、管内での需要と供給に不釣り合いが発生している。

このほか、かつお節製造に欠かせない薪として利用される地域内の天然林資源も7齢級以上の利用可能な林分が約92%と充実している。

地域の薪生産は県内で最も多く、薪生産に関わる林業従事者も多く存在し、地域林業の重要な役割を担っているが、近年、薪生産者や鰹節加工業者などから、薪の入手が難しくなってきたとの相談等がある。

また、地域の森林資源を循環利用するため、繰り返しの使用に耐える森林作業道作設や施業の低コスト化や省力化を図るためには、高い技術を有する林業従事者の育成が求められている。

3 現状及びこれまでの取組みの成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

ア. ニーズに応じた苗木生産

- ・地域内生産者のコンテナ苗生産技術向上と新規生産者の育成を目的とした県外視察や高い技術を有する生産者を招聘した研修会を企画開催した結果、生産者の技術向上が図られコンテナ苗生産量は増加傾向にある。
- ・また、研修会において紹介したアシストスーツが苗木生産においても労働強度の軽減に有用であることが実証された。

イ. 天然林資源の有効活用

- ・地域の特徴である薪について、薪生産者や鰹節加工業者への聞き取りを水産普及指導員も交えて行ったことで、薪生産・利用の実態と課題が明確になった。
- ・薪の生産振興にあたり、県特用林産振興基本方針内の振興作物としての追加について各市に提案を行い、概ね理解が得られ、追加の申し出が行われることとなった。
- ・小学校での森林環境教育を通じ、薪の生産・利用について学習活動を行った結果、地域の林産物として理解が深まった。

ウ. 林業従事者の技術向上

- ・流域林業活性化センター、地区森林・林業振興協議会主催により林業事業体育成研修、ICT等を活用した低コスト林業技術研修、森林作業道作設技術研修を開催し、地域内林業従事者の技術向上と育成に努めた結果、森林組合はもとより薪生産を主体としている事業体の林業従事者についても技術向上が図られた。

② 課題

ア. ニーズに応じた苗木生産

- ・コンテナ苗生産施設の整備が遅れていることから、生産者単位での施設整備や技術指導を行う必要がある。
- ・増産に向けた労務確保対策を検討する必要がある。

イ. 天然林資源の有効活用

- ・人工林施業と違い、機械化が遅れているため生産性が悪く省力化も進んでいない。
- ・薪生産に携わる生産者は減少傾向にあることから、担い手確保対策が必要である。

ウ. 林業従事者の技術向上

- ・地域内の森林は1筆当たりの面積が小さく分散していることから、集約化を担う森林経営プランナーの育成が重要である。
- ・施業の低コスト化や省力化を図るため引き続き地域内林業従事者の技術向上と育成を図る必要がある。

4 今後取組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

ア. ニーズに応じた苗木生産

- ・各種補助事業等を活用した生産基盤整備に向けた助言指導を行う。
- ・林福連携や新規生産者の育成等による労務確保対策の検討を行う。

イ. 天然林資源の有効活用

- ・各種補助事業等を活用し、薪生産に適した機械導入を推進し生産性の向上と省力化を図る。
- ・市有林等伐採箇所の確保に向けた検討を行う。
- ・林業大学校などと連携し、広葉樹の伐倒技術を有する担い手の育成を図る。

ウ. 林業従事者の技術向上

- ・流域林業活性化センター、地域森林・林業振興協議会を通じ、各種研修会の継続開催による林業従事者の技術向上を図る。

② 理由

- ・人工林は資源の充実により更に主伐が増加することが見込まれ、それに伴い再生林に必要な苗木も不足する可能性があるほか、作業の平準化に有効なコンテナ苗の需要も増加すると考えられる。
- ・薪生産は機械化が遅れているため生産性が悪く省力化も進んでいないほか、生産者は減少傾向にあり、担い手不足も懸念されている。
また、生産者が事業地の確保に苦慮していることも課題となっている。
- ・施業の低コスト化や省力化を進めるには、高い技術を有する林業従事者の育成や実用性のあるICT技術の普及が必要と考える。

③ 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

- ・今後更に増加が見込まれる人工林の主伐後の再生林では、作業の平準化に有効なコンテナ苗の生産体制が確立されることにより再生林率の向上に貢献する。
- ・薪生産における機械化が進むことで生産性の向上と省力化が図られるとともに、担い手の育成や事業地の確保により安定供給体制が確立され、充実した天然林資源の有効活用に繋がる。
- ・人工林、天然林に関わらず、高い技術を有する林業従事者の育成を図ることで、南薩地域の森林が更に整備・利用されることが期待できる。